

免疫染色が有効であった隆起性皮膚線維肉腫の一例

◎佐藤 茉莉乃¹⁾、深津 満¹⁾、佐藤 太一¹⁾
岡崎市医師会 公衆衛生センター¹⁾

【はじめに】

隆起性皮膚線維肉腫 Dermatofibrosarcoma protuberance, 以下 DFSP と略す) は、線維芽細胞ないしは線維性組織球を由来とする悪性腫瘍で、局所の細胞増殖は著しい傾向にあり、脂肪、筋、骨といった周辺組織への浸潤能力を持つが、他臓器への転移は稀と報告されている。病理組織学的所見では紡錘形細胞が花むしろ状 (storiform pattern) を呈して増生しているのが特徴であるが、この所見は DFSP に特異的なものではなく、また皮膚線維腫などのいわゆる線維組織球性腫瘍と類似の組織像を呈することがあり、HE 染色標本のみでは鑑別が困難な症例も存在する。今回、我々は atypical fibrous histiocytoma との鑑別を要し、確定診断に免疫染色 CD34 と S-100 蛋白が有効であった DFSP の一例を経験したので報告する。

【症例】

患者：30 歳、女性

主訴：右腹部皮膚腫瘤

家族歴および既往歴：特記事項なし

現病歴：2016 年に右腹部に腫瘤を自覚。放置するも軽快しないため、2022 年 11 月に近医を受診。診察時、軽度の圧痛を有する淡い紫色に透過する静脈瘤様の腫瘤が視認された。試験的に腫瘤部を切開・組織採取したところ、切開部に出血を認めたが、肉眼的に明らかな腫瘤としては認識できなかった。

【病理組織所見】

皮膚組織の HE 染色では、皮膚切片は真皮部深部から皮下にかけての結節性病変で、紡錘細胞を主体に多核巨細胞が限局的に認められ、切離断端は陽性であった。所見から DFSP が第一に考えられたが、確定診断とする所見に乏しく、atypical fibrous histiocytoma も否定できなかった。鑑別のため免疫染色 CD34、S-100 蛋白を施行した結果、CD34 陽性、S-100 蛋白陰性となり、DFSP と診断された。

【結語】

DFSP の診断は、良性の皮膚線維腫や悪性度の高い線維肉腫との病理学的な鑑別を要し、時に容易でなく、鑑別には免疫染色が有効な手段とされている。本症例でも、肉眼的には静脈瘤様、病理組織所見では紡錘形細胞に多核巨細胞が介在する組織形態を示し、DFSP として典型的ではなく、診断には染色適正の評価、および免疫染色が重要であった。DFSP との鑑別が困難とされる神経線維腫などの症例との鑑別では CD34 のみの選択では誤診につながる可能性があり、S-100 蛋白や FXIIIa など複数の抗体を使用し、判断する必要があると考えられた。

連絡先：0564-52-1572